

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071200622		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム怡土		
所在地	福岡市西区大字徳永1065-1 〒819-0375 (電話) 092-807-7576		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年1月14日	評定確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 16 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人	非常勤 3 人 常勤換算 6.95 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4階建て一部2階建ての～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(75,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円程度	

(4) 利用者の概要(12月16日現在)

登録人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	名		
要介護 5	名				
要支援 1	名		要支援 2	名	
年齢	平均 85.1 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団朝菊会 昭和病院 / 昭和歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設施設であるケアハウスがあるビルの一画にあり、ホーム玄関前には季節の花が植えられるなど、外観はビルであるが訪れた人の心を和やかにする工夫が伺える。職員が交代で議題を決めて講師役を務めるなどホーム独自の勉強会への取組みや資格取得への支援が行われており、職員は一人ひとり自分の課題を認識し、レベルアップに励んでいる。最低でも月に1回の家族面会を実施するなど、利用者と家族との関係性の維持を継続的に支援している。職員の気づきをその都度記入することができる記録様式等の工夫を行い、月に1度のカンファレンスにて利用者一人ひとりの検討、確認を行い、チームケアの実践を通して成果が見られる。今後、利用者の状態変化やその時々レベルに応じた、利用者の目線に立ったさらなる支援が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果については、職員会議及び運営推進会議にて報告し、改善についての協議を行うなど、質の向上に向けた取組みがある。この過程において、理念の再検討や地域との交流などの成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価について、職員が評価内容を記入し、主任がまとめるなど、全職員がかかわっての取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、地域包括支援センター職員、家族会代表等の参加による2ヶ月毎の開催がある。ホームの業務全般にわたる報告や行事予定、家族代表等からの質疑応答、地域の情報をいただくなど、活発な意見交換の場となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけやその都度の連絡や状況説明を通じて、家族の意見等の表出への取組みがある。また、ホームだよりを関係者全員に送付するなど、より多くの意見等を表出させるように努めている。また、家族会時に意見交換の場を設定するなどの取組みも見られる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 中学生の職場体験の受入れ、地域ボランティアの指導による縄作成、日々の散歩時の挨拶や近隣住民と利用者との立ち話し、近隣住民よりお花をいただくなど、自然な形で交流の機会がある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	平成20年8月に職員間で話し合い、職員も地 域の一員であることを意識したケアへの取組み のために理念の再検討を実施した。従来の事業 所理念に“地域の一員として”を取り入れ、具 体的で分かりやすい理念の作成がある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員で再検討されたものであり、 職員は、理念を意識した日々のケアに取り組ん でいる。ホーム内に理念が掲示されており、自 然と目に付く工夫がある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	中学生の職場体験の受入れ、地域ボランティ アの指導によるメ縄作成、日々の散歩時の挨拶 や近隣住民と利用者との立ち話し、近隣住民か らお花をいただくなど、自然な形で交流の機 会がある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果については、職員会議及 び運営推進会議にて報告し、改善についての協 議を行うなどの成果が見られる。今回の自己評 価について、職員が評価内容を記入し、主任が まとめるなど、全職員がかかわっての取組みが ある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者が集って2ヶ月毎の開催がある。ホームの業務全般にわたる報告や行事予定、家族代表等からの質疑応答、地域の情報をいただくなど、活発な意見交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加が見られ、行政とは日常的に相談、情報交換、研修会参加など交流の機会がある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、実践者研修への参加を通じて制度等について理解を得ている。家族については、パンフレットを配布しての説明を1度行ったが、継続的な説明までには至っていない。		家族会や運営推進会議等で、定期的に情報提供の機会を設け、広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、地域や利用者に活用していただけるような支援を期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけやその都度の連絡・状況説明がある。最低でも月に1回の家族面会を実施するなど、家族と利用者との関係継続の維持への取り組みがある。年に3回の“たより”の送付を通じて、入居者毎の様子を知らせたり、ホーム行事等の案内や報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の声かけ、その都度の連絡、家族会、ホームだよりを主介護者のみならず関係者全員に送付するなど、より多くからの意見等を表出させるように努めている。また、家族会時に意見交換の場を設定するなどの取り組みを始めたばかりである。		家族会時における意見交換の場の設定に組み始めたばかりです。今後、継続的・定期的に取り組まれ、より一層の活発な意見の表出に努めていただくことを期待します。
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去2年以上にわたって、職員の異動や離職は行われていない。新しい職員が入ってきた場合は、2週間ぐらい引継ぎの期間を設け、主任が指導をしていく体制である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、何ら制限を設けていない。ホームとしての募集・採用である。旅行が趣味の職員から旅先の話をしてもらったり、話術に長けた職員に家族会時の司会をお願いするなど、職員の得意分野を活かす配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内部研修時に、人権啓発センターより人権に関するビデオを借り、ビデオ学習を通じて、人権に関して学ぶ機会を確保するなど、積極的な取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の内部研修では、職員が交代で議題を決めて講師役を務めるなど、職員の意識改革及び質の向上に配慮した取り組みがある。外部研修の情報は自由に閲覧でき、希望を募ったり、指名するなど、外部研修への参加の機会がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の実習生の受入れを通じて、他のグループホームとの情報交換がある。今後、近隣地区にある他事業所との相互訪問を行っていく予定である。		現在予定されている、近隣地区にある他事業所との相互訪問を实践され、質の向上に向けての情報交換、職員個々の気づきやモチベーションをあげる機会となるような取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	系列法人施設からの入所や系列法人内で行われるクラブ活動に参加している方の入所が多く、入所前から顔見知りの関係が構築されている。また、出身地域や住所地が近いため話題が合うなど、抵抗無く溶け込んでいる。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争の話や利用者の若い頃の話、利用者の豊富な人生経験等から学ぼうとする姿勢がうかがえる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通して、利用者一人ひとりの思いや希望を把握し、把握した内容はセンター方式に記すことにより情報の共有に努めている。また、ホームだよりを作成する際に、新年にあたっての希望として、利用者一人ひとりの希望や思いの把握がある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりを通して利用者の思いや希望を把握し、介護計画の見直しに伴う説明時に家族の意見を伺い、カンファレンスにて協議を行いながら作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	月に1度のカンファレンスにて、職員の気づ きを基に、全利用者に対する現状に即した協議 がある。利用者ごとにファイルされた介護計画 書に、職員の気づきをその都度追記できるよ うにするなど、全職員の意見等を表出するた めの工夫がある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	利用者の希望に沿って、陶芸教室への付き添 いやコンビニエンスストアへの買物支援、利用 者の出身地へのドライブなど、その都度の柔軟 な支援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医があるも、今までのかかりつけ 医への受診も可能である。基本的には、今ま でのかかりつけ医への受診は家族対応であるが、 近隣のかかりつけ医への受診はホームで対応す るなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人の意向は、センター方式にて把握 に努めている。“重度化に伴う対応について” の説明を通じて、ホームの体制の説明、家族の 意向の聞き取りは行われているが、把握した内 容の記録がなく、情報共有にまでは至ってい ない。		全利用者に対しての意向の確認までには 至っていませんでした。日々のかかわりを通 じて、本人・家族の意向の再確認と把握に努 め、アセスメント内容等の充実への取組みに 期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者に寄り添っての会話や耳元での声か け、丁寧にお礼を述べるなど、利用者のプライ ドを尊重した対応が見受けられた。介護記録な どの取り扱いは、一元的に管理されるなど、個 人情報に配慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を始めるタイミング、入浴時間や入浴に かかる時間、レクリエーションへの参加など、 日常の過ごし方全般を通じて、利用者一人ひと りのペースを尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員が一緒に準備や食事、片付けを している	職員は利用者の出来る事を把握し、食事のつ ぎわけ、配膳、下膳などを利用者と協力して 行っていた。職員と利用者は同じテーブルを囲 み、利用者の話を傾聴しながら、さりげなく食 器を入れ替えたり、一口ずつ海苔で巻くなど楽 しく食事が行えるための支援が見受けられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	週3回、午後からの入浴実施が基本である が、利用者の希望に応じて、毎日の入浴も可能 である。利用者ごとにシャンプー等を準備する など、利用者一人ひとりに応じた支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日々のかかわりの中で、利用者の出来る事や 出来そうな事を把握し、センター方式を活用し 介護計画書に反映させての支援がある。自宅方 向に向かったの朝夕のお参りや陶芸、手芸、書 道、計算、絵を描くなどの趣味活動など、楽し みながら継続していけるような工夫がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望にそっての、日々の 散歩や買物、近隣地域へのドライブ等への取組 みがある。また、ホーム行事としての紅葉狩り や菜の花観賞、お弁当を持ってのハイキングな どの支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	利用者は自由に出入りができる。外出傾向が 見られる利用者に対しては、利用者の状況を把 握して一緒に出て行くなどの個別支援での対応 がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、併設施設との合同訓練の実施があ る。スプリンクラーが設置されるなど、延焼防 止への対応が講じられている。運営推進会議時 に、避難訓練等について協議は行われている が、避難訓練時の地域住民の見学等の参加は見 られない。		運営推進会議時の説明や日々のかかわりを 通じての説明など、避難訓練時の地域住民の 見学等への参加及び協力体制づくりに向けた 取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事に関して、食事量の低下が見られた利用 者について記録を取り、栄養状態の改善に向け て取り組んでいる。水分摂取についても、必要な 利用者については、介護計画書に取り入れての 支援がある。利用者に合わせて、目の前で切っ たり、小分けにするなどの対応が見られた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は段差がなく、安全に移動出来る造 りとなっている。リビング内には、季節の花が 活けられ、リビングの廊下や居室からは、季節 の移り変わりに伴う田畑の様子を見ることがで き、居ながらにして季節感を味わうことがで きる。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室とも、趣味の品や使い慣れた家具、思 い出の品などが持ち込まれており、その人とな りが伺える居室であった。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号